

令和6年度千葉大学環境健康フィールド科学センター履修証明プログラム
「多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム」
導入コース(旧入門コース) 第6期生 募集要項

「多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム」は、現在オールジャパンで展開されている農業と福祉双方の課題解決を図る取組みとしての農福連携活動に、当センターがこれまで取り組んできた「環境・健康・食」に関する教育研究活動の成果を加えることによって、「多様な農福連携活動を企画・運営できる人材」を持続的に育成するシステムの構築を目指したプログラムです。

令和6年度「導入コース」のプログラム受講生（第6期生）を下記の要領で募集します。

1. プログラム概要

本プログラムは、多様な農福連携プログラムを企画・運営するための基礎的な知識・実践能力の獲得を目指す講義・演習・栽培実習・栽培理論を組み合わせたカリキュラムになっており、作物栽培及び農福連携に関わる基礎を学びつつ、様々な視点を提供することで、その先の実践を見据えた内容になっています。「都市農業」×「障がい者支援」×「高齢者支援」×「QOL向上」をテーマに、①人のこころや体の多様性についての理解力を得るための「福祉」分野（5講座／15時間）、②人の動作認識、作業の難易度や負荷を理解するための「人間工学」分野（4講座／12時間）、③植物栽培の基礎知識や技術を身に付けるための「植物」分野（3講座／9時間）、④経営学の基礎を習得するための「経営」科目（1講座／3時間）及び⑤栽培実習・栽培理論やプレゼンテーションを行う「実習」分野（2講座／22時間）から成る計15講座合計61時間のプログラムです。（1講座を除き、対面での実施を予定しています。）

プログラム修了後は障がい者支援、高齢者支援、作業安全、植物・栽培学及び経営学に関する基本的リテラシーを備え、将来多様な局面において、自ら対象に合わせた「多様な農福連携活動のマネジメント」を行える基礎知識を身に付けることを期待しています。また、各講義・演習を通じて、分析評価能力、課題解決能力、コミュニケーション能力、パートナーシップ構築能力の基本を身に付けることができます。

2. 応募資格

都市農業、農福連携やSDGs、地方創生に関心のある方

3. 募集定員

12名程度

応募書類を選考の上、令和6年9月11日（水）以降順次選考結果を連絡します。

4. 応募方法

（1）応募書類

「令和6年度多様な農福連携プログラムに貢献できる人材育成プログラム」応募用紙

本学HPに掲載

URL : <https://www.chiba-u.ac.jp/education/recurrent/rishushomei.html>

(2) 応募期間

令和6年8月19日(月)～令和6年9月4日(水) 必着

(3) 書類提出先

メールの場合 : field-jinji@chiba-u.jp ※件名の先頭に【受講希望】と記入願います。

郵送の場合 : 〒277-0882 柏市柏の葉 6-2-1

千葉大学環境健康フィールド科学センター(柏の葉地区事務課) 総務係 宛

※「千葉大学環境健康フィールド科学センター履修証明プログラム応募書類在中」と朱書きし、簡易書留にて郵送願います。

※応募にあたってお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報については、本学において、履修生の管理業務、本プログラムに関する情報提供等、これらに付随する業務を行うためのみに使用します。また、取得した個人情報は適切に管理し、使用目的以外には使用しません。

5. 修了の要件

履修証明プログラムとして設定された15講座(計61時間)すべてにおいて、それぞれの修了要件を満たすこと。本プログラムを履修し全講座を修了した場合、千葉大学学長名での履修証明書を授与します。なお、単位の授与はありません。

6. 受講料及びその他費用について

(1) 受講料 60,000円

※受講決定通知後、令和6年9月20日(金)までに振り込み願います。なお支払われた受講料は、原則返金いたしません。プログラムを途中で辞退された場合でも同様です。

※本学職員が受講する際には、受講料を免除となります。

(2) その他費用

本プログラムで実施する対面授業・オプションの施設見学等に参加する交通費・施設見学料・宿泊費・腸内細菌検査費用等は自己負担となります。対面授業は、千葉大学柏の葉キャンパスで実施することを予定しています。

7. 今後の日程について

(1) 応募書類締切	令和6年9月4日(水) 必着
(2) 選考結果通知(振り込み案内の送付を含む)	令和6年9月11日(水)以降
(3) 受講料の支払い(60,000円)	令和6年9月20日(金)まで
(4) 対面授業期間 ※初日に開講式、最終日に修了式を行います。	令和6年9月21日(土)～令和7年2月8日(土)
(6) 履修証明書授与	所定の手続きを経た後、郵送します。

8. 問い合わせ先

千葉大学環境健康フィールド科学センター(柏の葉地区事務課) 総務係
〒277-0882 柏市柏の葉 6-2-1
TEL : 04-7137-8002 Mail : zao8006@office.chiba-u.jp

履修証明プログラムの構成・シラバス・日程表

●多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム（導入コース）

（１）構成

講座名等				
コース名	分類	講義形態	時間	講義担当（ ）内は所属
○農福連携の取り組みの現状と課題	福祉	講義 演習	3	吉田行郷（千葉大学園芸学研究院）
○農福連携の現状と課題（シンポジウム）	福祉	講義 演習	3	吉田行郷（千葉大学園芸学研究院）・野田勝二（千葉大学環境健康 FSC）
○高齢者看護学	福祉	講義 演習	3	正木治恵 他（千葉大学看護学研究院）
○障がい者支援学	福祉	講義 演習	3	田上美千佳（千葉大学看護学研究院）
○Nature Based Rehabilitation（NBR）とリハビリテーションガーデン入門	福祉	講義 演習	3	石井麻有子（千葉大学環境健康 FSC）
○コミュニケーションとコントロール基礎	人間工学	講義 演習	3	栗本育三郎（木更津高専・日本福祉工学会）
○作業療法概論	人間工学	講義 演習	3	豊田正博（兵庫県立大学、淡路景観園芸学校）
○ツボと健康～東洋医学からみた身体の仕組み～	人間工学	講義 演習	3	松本毅（千葉大学医学部附属病院）
○自然セラピー学基礎	人間工学	オンデマンド講義	3	池井晴美（千葉大学環境健康 FSC）
○植物学基礎	植物	講義 演習	3	渡辺均（千葉大学環境健康 FSC）
○園芸学基礎	植物	講義 演習	3	塚越覚（千葉大学環境健康 FSC）
○屋内外の生産緑化の理論と実際	植物	講義 演習	3	大林修一（プラネット）
○経営・ビジネス基礎	経営	講義 演習	3	小林寛利（VEGIMO GROUP）
○栽培実習・栽培理論	実習		20	高垣美智子（千葉大学）・小原均（千葉大学）・塚越覚（千葉大学環境健康 FSC）・野田勝二（千葉大学環境健康 FSC）他
○プレゼンテーション（発表会）	実習		2	野田勝二（千葉大学環境健康 FSC）他

(2) コースの概要 (実習を除き各3時間)

1) 導入コース

園芸学基礎	
キーワード	園芸、都市農業、施設栽培、養液栽培
概要	農福連携の農業場面で必要とされる、園芸学の基礎知識について解説する。
開講日	9月28日(土)
担当	塚越覚(千葉大学環境健康FSC)
分類	植物
到達目標	農福連携の農業場面で活用できる園芸学の基礎を理解する。
構成	対面授業2時間、演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

植物学基礎	
キーワード	分類、構造、成長、効果
概要	植物学的な側面から、植物の基本的な名称や構造を解説する。 植物の機能性の基礎を学ぶ。
開講日	10月5日(土) 午前
担当	渡辺均(千葉大学環境健康FSC)
分類	植物
到達目標	植物の構造、形の基礎を理解する。 植物の機能性の現状と課題を説明することができる。
構成	対面授業2時間、演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

高齢者看護学	
キーワード	超高齢社会、健康、ケア、保健医療
概要	高齢者の健康生活とその支援について解説する。 健康の保持および増進、疾病の予防などの人の健康に関わる分野を総合的に学習する。
開講日	10月19日(土) 午前
担当	正木治恵 他(千葉大学看護学研究院)
分類	福祉
到達目標	高齢者看護学の基礎を理解する。
構成	対面授業2時間、演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

農福連携の取り組みの現状と課題	
キーワード	農業と福祉の連携、経済性、社会的意義、障害と農作業
概要	農福連携の現状と取り組み方を解説する。 課題を学び、解決策の検討を行う。
開講日	11月16日（土）午前
担当	吉田行郷（千葉大学園芸学研究院）
分類	福祉
到達目標	農福連携事業での現状と課題を理解する。
構成	対面授業2時間、演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

コミュニケーションとコントロール基礎	
キーワード	環境、コミュニケーション、情報、計算機、コントロール、植物工場
概要	環境、動物、植物、人、コミュニケーション、情報、計算機、コントロールについて、最先端の植物工場の環境制御までを統合的に解説する。
開講日	11月23日（土）午前
担当	栗本育三郎（木更津高専・日本福祉工学会）
分類	人間工学
到達目標	システム情報学の基礎を理解する。
構成	対面授業2時間、演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

農福連携の現状と課題（シンポジウム）	
キーワード	活動、取り組み事例
概要	農福連携の現場で活躍している方々の取り組みにおける現状と課題をパネルディスカッション形式のシンポジウムから学習する。
開講日	11月23日（土）午後
担当	吉田行郷（千葉大学園芸学研究院）・野田勝二（千葉大学環境健康FSC）
分類	福祉
到達目標	園芸作業が人に与える影響について、その基礎を理解する。
構成	対面3時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

作業療法概論	
キーワード	栽培管理、作業分析、作業難易度、農作業と健康
概要	作業と健康、障害者に配慮した農作業分析、作業難易度の可視化と農福連携への活用、農作業が与える健康効果などを紹介する。
開講日	12月7日（土）午前
担当	豊田正博（兵庫県立大学、淡路景観園芸学校 園芸療法課程）
分類	人間工学
到達目標	栽培管理における作業の組み立ての基礎と作業がもたらす健康効果を理解する。
構成	対面授業 2 時間、演習 1 時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

障がい者支援学	
キーワード	健康、ケア、インクルーシブ
概要	精神障がい者の健康生活とその家族の支援について解説する。 健康の保持および増進、疾病の予防などの人の健康に関わる分野を総合的に学習する。
開講日	12月21日（土）午前
担当	田上美千佳 他（千葉大学看護学研究院）
分類	福祉
到達目標	精神障がい者の支援の基礎を理解する。
構成	対面授業 2 時間、演習 1 時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

Nature Based Rehabilitation（NBR）とリハビリテーションガーデン入門	
キーワード	NBR、リハビリテーションガーデン、ストレスケア
概要	Nature Based Rehabilitation（NBR）及びリハビリテーションガーデンの理念と人に与える影響について演習を交えて解説する。
開講日	12月21日（土）午後
担当	石井麻有子（千葉大学環境健康 FSC）
分類	福祉
到達目標	NBR とリハビリテーションガーデンの理念と人に与える影響について、その基礎を理解する。
構成	対面授業 2 時間、演習 1 時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

ツボと健康～東洋医学から見た身体の仕組み～	
キーワード	東洋医学、鍼灸、健康、域外、養生
概要	養生という概念について、東洋医学の視点から理解し、身体の仕組みと機能について学び、健康について考える。また、農福連携における配慮点に関して解説する。
開講日	1月11日（土）午前
担当	松本毅（千葉大学医学部附属病院）
分類	人間工学
到達目標	東洋医学的な考え方や、身体の仕組みと機能について理解する。
構成	対面授業2時間、演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

経営・ビジネス基礎	
キーワード	経営概論
概要	一般的な経営学の基礎に加え、農業経営および福祉施設の経営について解説する
開講日	1月11日（土）午後
担当	小林寛利（VEGIMO GROUP）
分類	経営
到達目標	経営・ビジネス学の基礎を理解する。 農福連携事業での現状と課題を説明することができる。
構成	対面授業2時間、演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

屋内外の生産緑化の理論と実際	
キーワード	屋内緑化、ハイドロカルチャー、リレー栽培
概要	屋内・屋外における生産緑化の理論と、農福連携における活用方法について解説する。
開講日	1月11日（土）午後
担当	大林修一（プラネット）
分類	経営・植物
到達目標	生産緑化の理論と実際について理解し、農福連携事業で活用方法に関する知見を得る。
構成	対面授業2時間、演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

栽培実習・栽培理論	
キーワード	栽培技術、有機農業、施設園芸、園芸作物、加工
概要	栽培実習・栽培理論を通じて、取り組みの工夫、課題、将来展望などを学ぶ。
開講日	9月21日、9月28日午後、10月5日午後、10月19日午後、11月16日午後、12月7日午後
担当	小原均・渡辺均・塚越覚・野田勝二・高垣美智子 他（千葉大学環境健康FSC 他）
分類	実習
到達目標	農福連携事業の現状と課題を理解することができる。 事業の改善を提案できる。
構成	農場での播種、管理、収穫などの作業 施設園芸、有機農業、養液栽培の基礎的な管理手法を学ぶ
修了要件	実習、意見交換会に参加すること
特記事項	加工実習を行うため、腸内細菌検査を受けていただく必要があります。 (別途、説明があります。)

自然セラピー学基礎	
キーワード	リラックス効果、生理指標、快適性評価
概要	植物由来の刺激がもたらすリラックス効果について、最新の研究成果を踏まえて解説する。さらに、近赤外分光法による脳前頭前野活動計測等のデモ実験を行うことにより、生理的快適性評価手法の基礎を学ぶ。
開講日	オンデマンド動画
担当	池井晴美（千葉大学環境健康FSC）
分類	植物
到達目標	自然セラピー学の基礎を理解する。
構成	対面授業2時間、演習（デモ実験）1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

プレゼンテーション（発表会）	
キーワード	農福連携、活動、将来ビジョン
概要	本プログラムで学んだことを通して、それぞれが現在行っている活動と今後の活動計画について発表し、意見交換をしようことで、今後の農福連携活動をより有意義なものにします。
開講日	2月8日午後
担当	野田勝二（千葉大学環境健康FSC） 他
分類	実習
到達目標	今後の農福連携活動をより明確にイメージできる。
構成	演習2時間
修了要件	演習に参加すること
特記事項	

(3) 開講日程表

土曜日開講 1日6時間 (9:00~12:00、13:00~16:00)

月日	午前 (9:00-12:00)	午後 (13:00-16:00)	備考
9月21日	開講式・栽培実習・栽培理論 (栽培現場視察)	栽培実習・栽培理論 (果樹類・蔬菜類管理)	
9月28日	園芸学基礎 塚越 寛 (千葉大学)	栽培実習・栽培理論 (果樹類・蔬菜類管理)	
10月5日	植物学基礎 渡辺 均 (千葉大学)	栽培実習・栽培理論 (果樹類・蔬菜類管理)	
10月19日	高齢者看護学 正木治恵 (千葉大学)	栽培実習・栽培理論 (果樹類・蔬菜類管理)	
11月16日	農福連携の取り組みの現状と課題 吉田行郷 (千葉大学)	栽培実習・栽培理論 (果樹類・蔬菜類管理)	
11月23日	コミュニケーションとコントロール基礎 栗本育三郎 (木更津高専)	農福連携の現状と課題 (シンポジウム)	
12月7日	作業療法概論 豊田正博 (兵庫県立大学・淡路景観園芸学校)	栽培実習・栽培理論(ジャム加工実習)	要：腸内細菌検査
12月21日	障がい者支援学 田上美千佳 (千葉大学)	Nature Based Rehabilitation (NBR) とリハビリテーションガーデン入門 石井麻有子 (千葉大学環境健康 SFC)	
1月11日	ツボと健康~東洋医学から見た身体の仕組み~ 松本 毅 (千葉大学)	経営・ビジネス基礎 小林寛利 (VEGINO GROUP)	
2月8日	屋内外の生産緑化の理論と実際 大林修一 (株式会社プラネット)	プレゼンテーション (発表会) ・修了式	
オンデマンド授業	自然セラピー学基礎 池井晴美 (千葉大学)		